

札幌市環境プラザ運営協議会 令和4年度第2回実施概要

- 1 日時 令和5年2月17日（金）18：30～19：30
- 2 会場 札幌市環境プラザ
- 3 出席者
 - (1) 委員：阿部委員、大沼委員、井川委員、崎川委員、東館委員、福田委員、
下川原委員
 - (2) 札幌市：環境局環境政策課環境教育担当係長、環境政策課推進係 係員
 - (3) 事務局：（公財）さっぽろ青少年女性活動協会 市民活動担当課長、市民参画課係長、
主任職、一般職員2名、

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) あいさつ 札幌市環境局 環境都市推進部 環境政策課長 東館 雅人 様
- (3) 運営協議会について
- (4) 委員自己紹介、近況報告
- (5) 議事
 - ・令和4年度事業報告および令和5年度事業計画の説明
 - ・意見交換『さっぽろあそエコ団』活動内容について
- (6) あいさつ 札幌エルプラザ公共4施設館長 下川原 清貴
- (7) 閉会

5 議事概要

・令和4年度事業報告および令和5年度事業計画の説明

事務局から令和4年度事業報告および令和5年度事業計画の紹介を行った。事業報告では、事業の進捗状況について写真・動画などを紹介した。

事業計画では、次年度が次期指定管理の1年目であることから、コロナ禍で縮小していた事業、特に野外での体験活動を本格的に実施していくと共に、G7 やSDGsなど市民の関心が高まる機会を逃さず、市民の行動変容を促す取り組みを行うために、見学プログラムの拡充や指導者向けの研修等可能性を探っていくこと等を説明した。

・『さっぽろあそエコ団』活動内容について

『さっぽろあそエコ団』は環境プラザが重視している自然体験の機会提供を子どもたちに提供する、環境プラザの中心的事業である。今後も継続して実施するためにおすすめのアクティビティや事業の目的に則した活動場所、講師等情報をお持ちであればぜひお聞きしたい。また、現在は小学生を対象として実施しているが、より広く札幌の自然の楽しさを伝えるために対象年齢を上げることも検討している。みなさまの経験から、中学生を集めた自然体験事業の事例等あればぜひお聞きした。

（意見）年間をとして実施すること、また振り返りを行うことがとても良いと思った。自分たち（参加した子ども）が何をやってきたのかを考え直す時間は子どもから大人まで、すごく大切だと

思う。

札幌市では、茨戸川緑地や山口緑地のほか、福移やあいの里の緑地等、もともと植樹された場所で札幌市内の企業と協定を結び、企業の森づくり活動をやっている。

企業としては公園をきれいにしたら誰かに使ってもらいたいと考えているため、子どもたちが遊ぶフィールドとして使っていただけるのであれば積極的に使ってほしいという話がある。

公園緑地は、アクセスしやすく、お手洗いもあり、避難場所でもある。場所を選べば、枯れ木の剪定や枝払い体験することができる。協定を結んでいる企業に講師として話してもらうなど、つながりができると良い。小学生はもちろん、中高生の利用も歓迎されるそう。

(意見) 生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークやC I S Eネットワーク等との連携も良いと思う。札幌市には円山動物園があるので、野生動物との共生や距離の話ができると良い。ヒグマが市街に出てきて、子どもの通学途中で怖い体験をするということが少しずつ出てきてしまっている。知っておかなければいけない知識だと思う。

(意見/質問) 座学、手足を動かす、体験をする、振り返る、そのサイクルを回すというは、参加させる親が相当熱心ではないとできないなと思った。

事業に参加させる意識の高い親が子どもに自然環境について継いでいくこと自体はすごくいいと思うが、意識が高過ぎる親は自分で子どもを連れまわしている。ネタ切れになっている親に対し、こんなものがあるのだ、あるいは、よく子どもを連れて行っていただけでも、こういう見方はしていなかったと言わしめる何かが必要になってくる。

このように、ターゲットを考えたとき、将来札幌の環境を背負うような子どもを育て、一緒に学んでいる意識の高い親を「わあっ」と思わせた活動があればお聞きしたい。

(事務局) 我々が行っているアクティビティの強みは専門家や知識を持った方々とのネットワークにある。登山をしながらの自然観察は札幌市環境教育リーダーを必ず同伴させている。親が子どもを連れて行くのとは違い、その場所に行くだけではなく、札幌にどうしてこういう山ができたのか、この植物がこの高さに生えているのはなぜなのか、など学びのある話を必ず用意している。カラカネイトトンボの会との活動も、トンボにただ触れるだけではなく、活動されている方のフィールドバックを大切にしている。

(事務局) 様々な自然体験事業に参加している子どももおり、そうした子どもは確かに活動に慣れているが、自然のフィールドには毎回変化があるので、いつも新しい発見があった。活動に慣れた子どもたちにも参加してもらえるのが自然体験のいいところで、これからも参加してもらえよう事業内容を検討していきたい。

(意見) 体験から学ぶこと、学校の授業の中では実践できない体験は子どもにとって本当に貴重だと思う。専門家や環境教育リーダーから学ぶことがあそエコ団の価値であり強みである。何より大事なのは子どもが自分で考え、主体的に取り組んでみる場面をつくることなので、次年度もこの事業を小学生、それから中学生に向けて発展させていく際に、子どもに委ねる場面、子どもが自分で決定する場面などを設定すると可能性がさらに広がるのではないか。

また、対象年齢の引き上げについて、中学校1年生と3年生は全く別物で発達段階が違う。3年生は塾や部活等とても忙しいので現実的には申し込んでくるのは1・2年生が中心になると思うが、ニーズはあると思う。そういったとき、小学生に向けるよりもさらに、子どもに委ねる場面をつくり、どうやったらいいのかと子どもたちが考え、交流しながら、折り合いをつくっていく場面はかけがえのないものになると思うので、ぜひご検討をいただきたい。

(意見) 18名の参加ということで、その子たちが体験したことを学校に持ち帰ってクラスの子た

ちに広げることができれば、環境プラザの伝えたいことがより広まるのではないか。
(事務局) そうしたことがしたくなる仕掛けを考えていきたい。

以上